

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和4年3月25日（金）10時00分～10時35分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

知見主任安全審査官、新井安全審査官、高松専門職、高木係長

横山係長、久川係員、高木技術参与（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当5名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
 - 2・3号機原子炉注水量低減の実施結果について
 - ✓ 原子炉格納容器（PCV）水位が安定している2・3号機について、従来の注水量 $3.0\text{m}^3/\text{h}$ から $1.7\text{m}^3/\text{h}$ を目標に段階的な注水量低減を実施した。
 - ✓ 段階的な注水量低減において、原子炉圧力容器（RPV）底部温度、PCV内温度、PCVガス管理設備ダスト濃度等のパラメータに異常がないことを確認したため、本運用へと移行している。
 - ✓ 2号機については、2021年9月9日から注水量 $2.5\text{m}^3/\text{h}$ とした本運用を開始し、その後2022年3月10日から注水量 $1.7\text{m}^3/\text{h}$ とした本運用へと移行した。
 - ✓ 3号機については、2021年10月14日から注水量 $2.5\text{m}^3/\text{h}$ とした本運用を開始し、その後2022年1月6日に注水量 $1.7\text{m}^3/\text{h}$ とした本運用へと移行した。
 - 工程表（循環注水冷却、使用済燃料プール対策、燃料デブリ取り出し準備）について
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメント等を行った。
 - 使用済燃料プール対策工程に関し、共用プール1階の天井クレーンの走行不能事象により乾式キャスク搬出作業の開始が遅れる見通しとの説明があったが、2022年3月16日の地震の対応とも連携し、原因の究明および復旧工程について適時説明すること。

6. その他

資料：

- 2・3号機原子炉注水量低減の実施結果について
- 循環注水冷却スケジュール
- 使用済燃料プール対策スケジュール
- 燃料デブリ取り出し準備スケジュール

以上